

日本損害鑑定協会

会長 太田 英俊



新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。昨年は地震・台風・集中豪雨等による被害が多発した多難な1年となりました。被害を受けられた皆さま方に、心よりお

見舞い申し上げます。また、インフルエンザの流行が急拡大している上、新型コロナウイルスや、マイコプラズマ肺炎、他の感染症も蔓延しているように、感染防止対策と健康管理には十分にご留意いただきたいと思えます。損害業界としては、モーター代理店による不正請求や、共同保険における保険料調整、出向社員

による不適切な対応の他、ランサムウェア攻撃による情報漏洩等が話題となった一方で、ウクライナや中東情勢の緊迫と、急激な気候変動による被害拡大、インバウンド観光に伴う物価高騰等もあり、大変厳しい1年でもあったように思います。

自然災害をはじめ、さまざまな事故への対応で多忙を極める中、関係各位の多大なるご支援・ご協力により、去る11月2日に当会の一大イベントである損害鑑定フォーラムを開催することができました。

今回は第10回目の記念大会となりましたが、前回は第10回目の記念大会となりましたが、前

めて厚く御礼申し上げます。今回のフォーラムは、今後を担っていく中堅、若手鑑定人に対し、「過去の業務内容や環境、物事への取り組み姿勢等を伝えつつ、現在を見つめ

その他の活動状況としては、当協会は2025年10月に創立50周年を迎えるに当たり、損害鑑定業界の発展と当会のありみを次世代に引き継ぐべく、50周年史の作成に着

手し、年度内の完成を目指し、最後の詰めに入っています。また、継続的な専門教育体系(CPD)の充実・発展を目指し、損害鑑定能力を客観的に評価できる技能認証制度の研究を進めていますが、ま

は生涯教育とスキルアップに重点を置き、損害鑑定人に必要な知識とスキルを網羅した、協会統一テキストを作成しています。現在、各界の専門家に

今年度内に協会統一テキストの完成目指す

より編成された監修委員の完成を目指しています。他団体との連携としては、AICLA (Asian Institute of Chartered Loss Adjusters: オーストラリア連邦勅許鑑定人協会)と、さまざまな意見交換を継続的に行なっています。例年、同協会の主催するACC (Asian Claims Convention: アジア損害鑑定人会議)に参加していますが、

年度のACC25は大阪で5月に開催されることが決定されており、当協会としても開催を支援してまいります。その他、近年は、ランサムウェア(身代金要求型ウイルス)攻撃による被害が急増しているため、会員各社に対しては、関連する専門事業者

賠償責任保険やサイバー保険の内容について概要の説明を加えて、サイバー対応に関する注意喚起を行ない、危機認識の共有を図りました。今後、協会内の各種委員会や、ワーキンググループ等の活動を通じ、更なる教育研修体系の整備、女性活躍の推進、損害鑑定人の業務環境改善への取り組みについても積極的に進めてまいります。損害保険を取り巻く厳しい環境の中において



(見出しは編集部)